

比較的採集しやすい。

後種は今まで採集例が少なかったが、1977年8月中旬に北海道網走市能取岬近くの海に注ぐ小川の湿った砂地において、局部的に群棲する場所をみつけた。採集した当日は気温が高かったせいか、逃げられる個体が多く、わずかに31頭しか得られなかったが、ここではコホソトビミズギワゴミムシは1頭も採集できなかった。両種にはあるいは住み分けができていのかかもしれない。コホソトビミズギワゴミムシに比較して、ホソトビミズギワゴミムシは、より海浜性を有する種類ではないかと考えられる。

(〒082 北海道河西郡芽室町新生  
北海道立十勝農業試験場専技室)

### フチトリヒメヒラタタマムシの 本州における採集例

藤田 宏

フチトリヒメヒラタタマムシ  
*Anthaxia (Haplantaxia) rubromarginata* MIWA et CHUJŌ  
は北海道・本州・九州・対馬・朝鮮・シベリア東部(ウスリー)における分布が知られているが、日本では稀な種で、特に本州における記録はわずかなものと思われるので、筆者の手元の記録を報告しておく。

1ex., 福島県南会津郡湯の花,  
16. Ⅶ. 1974, 小林敏男採集

広葉樹伐採枝のピーティングで採集されたとのことである。貴重な標本を恵与された小林敏男氏に感謝したい。

(〒110 台東区台東 2-29-6)



を設立した(昆虫学評論, 29(1/2), pp. 59~61, 1968)。たしかに、前肢・前胸背側縁の刺毛列・後肢第5付節の下面の小歯などを比較観察すれば、*moerens* m. および *moerens ohbayashii* と *hakonensis* とははっきりした違いをもっているので、*hakonensis* は *moerens* の var. または ssp. ではなく、独立種とした野村氏の考えが妥当と思われる。

さらに前記論文の中で野村氏は、*H. hakonensis* の産地として箱根仙石原・箱根・神山をあげ、「本種の産地は目下のところ、箱根付近に限られているが、伊豆半島に本種やイノウエスジコガネ *Anomala inouei*<sup>注1)</sup> のような固有種を産することは分布上興味深いことである」とのべている。

野村氏のあげた3ヶ所の産地の中の「箱根」がどこをさすのか不明確ではあるが、いずれも箱根外輪山の内側と考えるとすれば、続く文章からみて、野村氏は箱根を伊豆半島に含めて考えているようである。

伊豆半島を考える時に、箱根地方までを含めるか否かは、かなり難しい問題である<sup>注2)</sup>。そこで筆者は、これに深入りすることをしないで、より明瞭な伊豆半島におけるハコネアシナゴコガネの産地を探してみたが、文献の中に見つけることはできなかった。ところが、幸いにも今回下記のように本種を採集することができたので、伊豆半島における初記録として報告しておく。

1♀, 静岡県伊豆・天城峠, 16. Ⅶ. 1977,

石田正明採集

本個体と箱根(駒ヶ岳・神山)産の個体と比較してみたところ、箱根産のやや小型で背面に鱗片の少ない個体

### ハコネアシナゴコガネを伊豆・天城峠で採る

石田 正明

ハコネアシナゴコガネは沢田玄正博士により、クロアシナゴコガネ *Hoplia moerens* WATERHOUSE の var. として記載され、模式産地は箱根仙石原(holotype・allotype・paratype)および赤城山・魚岩留・蓼科・万座温泉・富士山・日光・諏訪東俣などがあげられた(日本の甲虫, 2(1), p.39, 1938)。

野村鎮氏はこれについて、holotype を含む箱根産のものを独立種と認め *Hoplia hakonensis* SAWADA とし、他の産地のものを *H. moerens ohbayashii* として新亜種

とよく一致した。このような個体は箱根においては出現率は低いようである。

これによって、ハコネアシナガコガネ・イノウエスジコガネの2種がともに、箱根地方と伊豆半島に産することになり、しかも他地方からは未見であるということになった。このようにコガネムシ科の個有種が2種あるということは、野村氏のいわれるように分布上興味深いことである。

注1) イノウエスジコガネは *Mimela inouei* として扱われることもある。現在まで知られている産地は下記のとおり。

1. 静岡県大滝温泉(模式産地)(野村, 昆虫学評論, 19(2), p. 56, 1967)
2. 静岡県伊豆・達磨山(石田, 月刊むし, 21号, p. 9, 1972)
3. 神奈川県仙石原(野村・小林, 昆虫学評論, 29(1/2), p. 41, 1976)
4. 静岡県伊豆・天城峠, 18巻, 16. Ⅶ. 1977, 石田・庄田採集(新記録)

注2) 箱根火山と伊豆半島との関係、さらにこの両者と伊豆諸島との関係については、生物地理学的に探究する方向と地学的に探究する方向とを合わせ用い、これを重ね合わせて考える必要があると思われる。

(〒168 杉並区宮前 3-23-5)

## 利尻島 6 月下旬のハムシ

今坂 正一

1975年6月26~28日の間、北海道宗谷支庁の利尻島で採集する機会を得た。3日間共小雨まじりの天候で気温も13~20°Cと低く虫の姿はあまり見られなかったが、この頃同地へ採集に訪れる人も少ないと思われるので、ハムシ科の採集品を報告しておく。

1. *Smaragdina aurita* (LINNAEUS)  
キボシルリハムシ  
3 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 6 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
2. *Cryptocephalus nitidulus* FABRICIUS  
1 ex., 利尻岳, 28. Ⅶ
3. *C. pumilo* SUFFRIAN  
アイヌツツハムシ  
2 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 6 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
4. *Basilepta balyi* (HAROLD)  
チャイロサルハムシ  
17 exs., 姫沼, 27. Ⅶ
5. *Bromius obscurus* (LINNAEUS)  
フキサルハムシ  
1 ex., 利尻岳, 28. Ⅶ
6. *Syneta adamsi* BALY  
カバノキハムシ  
21 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
7. *Pyrrhalta lineola* (FABRICIUS)

- ハンバミハムシ  
6 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 20 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
8. *Galerucella grisescens* (JOANNIS)  
イチゴハムシ  
1 ex., 鴛泊, 26. Ⅶ
  9. *Fleutiauxia armata* (BALY)  
クワハムシ  
1 ex., 鴛泊, 26. Ⅶ; 1 ex., 姫沼, 27. Ⅶ
  10. *Stenoluperus nipponensis* (LABOISSIERE)  
ヒゲナガウスバハムシ  
18 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 2 exs., 姫沼, 27. Ⅶ; 27 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
  11. *Luperus viridipennis murakamii* KIMOTO  
ムナキホソヒゲナガハムシ  
1 ex., 姫沼, 27. Ⅶ
  12. *Agelasa nigriceps* MOTSCHULSKY  
キクピアオハムシ  
2 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 4 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
  13. *Gallerucida bifasciata* MOTSCHULSKY  
イタドリハムシ  
11 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 5 exs., 姫沼, 27. Ⅶ
  14. *Aphthona perminuta* BALY  
ツブノミハムシ  
7 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 3 exs., 姫沼, 27. Ⅶ; 12 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
  15. *Crepidodera japonica* BALY  
ミドリトビハムシ  
14 exs., 鴛泊, 26. Ⅶ; 5 exs., 姫沼, 27. Ⅶ
  16. *Chaetocnema concinna* (MARSHALL)  
3 exs., 利尻岳, 28. Ⅶ
- 以上16種のうち、*C. nitidulus* は H. TAKIZAWA (1975)<sup>1)</sup> によって北海道と利尻島の分布が報告されたばかりである。平安高校生物部の報告(1976)<sup>2)</sup>にはこの種(*C. approximatus* として記録)を含めて、利尻島産ハムシ48種が記録されている。
- 今回、イチゴハムシ・キクピアオハムシ・イタドリハムシの3種が新たに追加されたことになる。

- 1) H. TAKIZAWA (1975): Kontyū, Tokyo, 43(4), pp. 422~436
- 2) T. KISHII (1976): The Bulletin of the Heian High School, (20), pp. 57~60, pp. 77~91

(〒855 島原市白土町 1064)